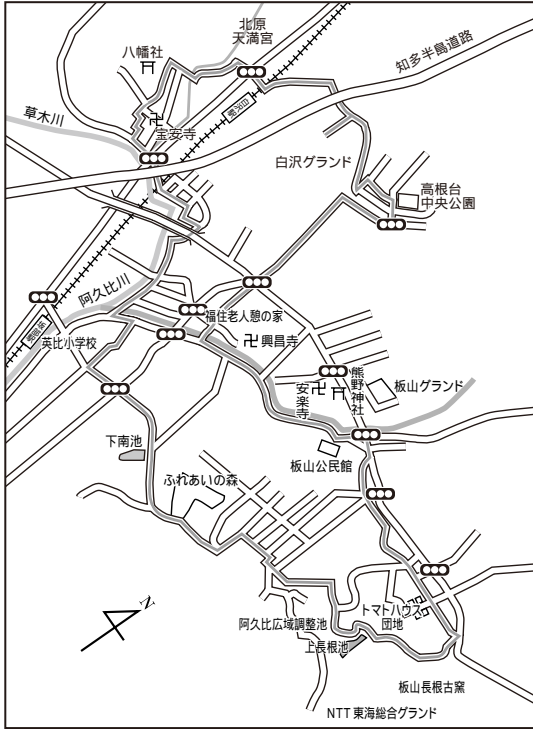


# シリーズ 阿久比を歩く ⑦②

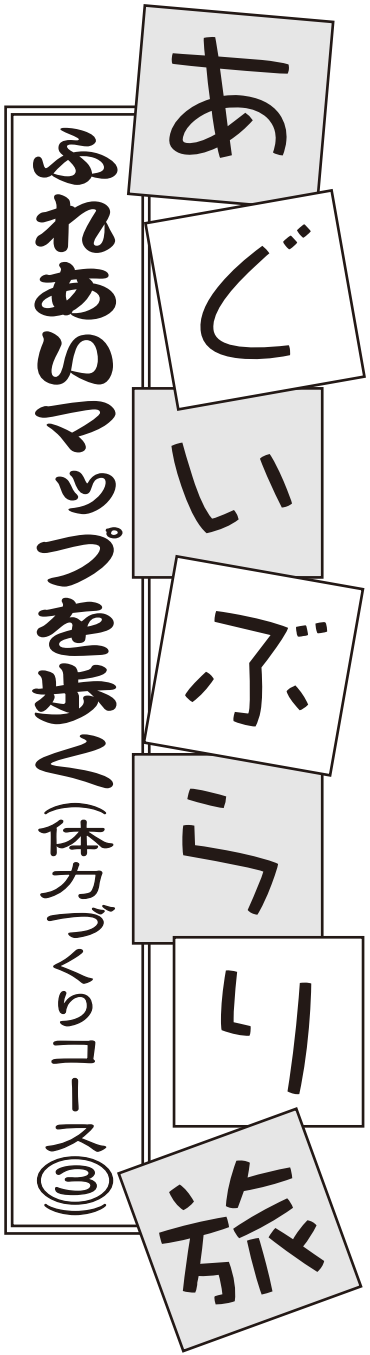


八幡神社狛犬の上に残されたツトリ住宅街を走り抜ける。少し歩くと

道を上り第十一チエックポイントの「白沢グラウンド」を目指す。人の声が聞こえる。グラウンドでは揃いのユニホームを着た子どもたちが野球の練習に励む。コーチの大きな声が飛ぶ。それに負けじと駆け回る子どもたちの姿は実に気持ちがいい。

「この少年たち、大リーガーのイチローは知っているとと思うけど、星飛雄馬の大リーグボールは知らないだろうなあ。私がかからないことを言うよ、僕も知らないですよ。」ええ、そつなの。友人と年の差を感じた。第十二チエックポイントの「北原天満宮」に梅の花が咲く。北原天満宮は天曆九（九五五）年、菅原道真公を祭神として、阿久比の郷を開いたといわれる英比磨（道真の孫）住居跡に建てられたとされる。道真公が梅を愛し、英比磨の子孫で坂部城主になった久松家が梅を家紋としたゆかりもあり、梅の花は町の花にも制定されている。東風吹かば、匂ひおこせよ梅の花あるじなしとて、春をわするな道真公が詠んだ和歌が境内の立て札に紹介されている。「うめー梅早く食べたい、梅干で」と詠んだのは君だつたよねえ。いつかどこかで紹介されることを期待するよ。いやー、僕の作品なんか・・・。友人の笑顔はまんざらでもなさそう。

第十三チエックポイントの「八幡社」に着く。この神社では、毎年旧暦の一月七日の早朝に「山の神祭り」が行われる。わらで長さ一坪ほどの「ツト」と呼ばれる縄を編み、神社拝殿前に飾られた縄にツトを掛けて「山の神の頂栄さ無事息災に頂栄さ・・・」と唱えながら一年の豊作や健康が祈られる。二月十三日に祭りが行われたと聞く。狛犬にツトが残される。縁起物だと思い、私たちもそのツトに触れて境内を後にする。十・五キロあった「体力づくりコース」もいよいよ最後の第十四チエックポイントの「宝安寺」を残すのみとなった。重かった足取りもいつのまにか軽やか。梅は咲いたかあー、桜はまだかいなあー。二人で鼻歌を口ずさむ。あつという間に宝安寺に到着した。今回のぶらり旅では、運動不足も少しだけ解消できたし、春の訪れも感じる事ができた。次はどこへ出掛けようか考えながら帰途に就く。



北原天満宮に咲く梅の花